

## 第 88 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第八十八回 2016 年 5 月 21 日（土）時間：13：30～16：30 於：専修大学（神田校舎） >

参加者：井端、大野、木村、宮川、山本、依田（6 名）

### 1. テーマ：継続企業の前提の注記に関する分析—クボテック株式会社—

- ・報告者：依田光広
- ・配付資料：10 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、3 期連続で営業損失、当期純損失を計上し、業績不振が続く企業が継続または存続できる要因について考察した。クボテック株式会社（以下、クボテックとする）は、2012 年 3 月期から 2014 年 3 月期まで 3 期連続で営業損失、当期純損失を計上し、2013 年 3 月期および 2014 年 3 月期の連続して、有価証券報告書に継続企業の前提に関する注記を記載した。

クボテックは、画像処理技術をもとに検査装置の製造・販売、また 3D ソリューション、メディア機能を中心に業容・業績の拡大を果たしていった。それらの独自性のある技術力をもとに、ICT にかかる最先端の技術や思考をもとに活動をおこなっている。一方で、財務的趨勢をみれば 2000 年代前半からの業績悪化、市況製品との関連でメイン顧客が変動することで、売上高の変動性が高いことが指摘された。

クボテックは、検査装置の製品販売し、販売量が小さいニッチ市場である点、商売としては最終製品を販売する形態ではないため、検査装置の需要は完成品の影響を受ける点、また検査装置の保守による収益獲得の点について検討した。その他にも、クボテックの問題には株主構成と資金調達、事業構造改革などの関連の問題を取りあげた。

まず株主構成では、7 割はファミリーが株主となり、浮動株は 10% 以下と考えられ、市場からの資金調達の有無や市場を利用した資金調達の必要性を検討した。そのうえ、負債利用の側面からは、現金預金の保有量に比べて、銀行から借入量過多、借入れ量バランスについて議論が生じた。そして、技術志向のクボテックにおいて、費用項目として労務費や研究開発費の占める割合が高いこと、事業構造改革による労務費の削減、次世代ディスクプレイ向け、太陽光発電用の次世代蓄電システム事業の強化にかかる研究開発費支出について、どのような展開を示すか今後、検証する必要があるとした。

これら検討したうえで、クボテックにかかる継続企業の前提について評価すれば、新規事業や新製品開発、事業構造改革を行なっているものの、収益性の回復、販売拡大により事業基盤の強化を図る必要がある。そのため、クボテックには、重要な不確実性があり、将来性については不確定な要素があると結論とした。一方で、ICT 技術の進展により、ICT 製品の検査市場の拡大がみられ、クボテックの強みが活かされる潜在性があるといえると考察した。

### 2. 分科会の今後の運営方針について

山本先生より 2015 年度の分析対象企業の終了とその総括をおこなった。また、主査の山本先生より分科会主査を木村先生へ変更したい旨の報告があり、了承された。木村先生から、次年度以降の運営方針について提案があった。今後の運営を決めるにあたり、6 月において分科会をおこない、次年度の決定を行う旨が決定された。

### 3. 今後の予定について

- ・2016 年 6 月 メーリングリストにて確認後、教室確保次第、連絡。

（文責：宮川 宏）